



## Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A

Treasury Department  
Av. Paulista, 1274 – Bela Vista  
São Paulo, SP – 01310-925

## 1. マーケット・レート

			9月21日	9月22日	9月23日	9月24日	9月25日	Net Chg
為替	USD/BRL	Spot	3.9850	4.0500	4.1780	3.9500	3.9750	+0.0250
	BRL/JPY	Spot	30.25	29.67	28.79	30.50	30.35	-0.15
	EUR/USD	Spot	1.1190	1.1127	1.1183	1.1206	1.1198	-0.0008
	USD/JPY	Spot	120.57	120.16	120.26	120.30	120.59	+0.29
金利	Brazil DI	6MTH(p.a.)	14.79	14.99	15.50	14.42	15.03	+0.6095
	Future	1Year(p.a.)	15.55	15.67	16.22	14.79	15.50	+0.7091
	On-shore	6MTH(p.a.)	2.944	3.142	2.979	2.833	2.893	+0.060
	USD	1Year(p.a.)	3.989	4.112	4.004	3.928	4.112	+0.184
株式	Bovespa指数		46,590.00	46,264.61	45,340.11	45,291.96	44,831.46	-460.50
CDS	CDS Brazil 5y		427.67	462.50	482.04	482.84	500.00	+17.17
商品	CRB指数		196.846	194.819	192.376	193.581	195.712	+2.131

\* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインディケーションです。実際のレート提示は弊社担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。

## 2. 週間市況、トピックス

- 今週のレアルは3.9420で寄り付いた。週初のブラジルレアルは、政局の混迷を受けて、格下げへの懸念からレアルは軟調に推移した。ロックハート・アトランタ連銀総裁を初めとする複数名のFRB理事が年内利上げの正当性について言及したことからドルが買われたこともあり、ドルレアルは3.9980まで売られた。
- 伯中銀によるアナリスト調査では本年の経済成長率が予想-2.55%から-2.70%へ10週連続で引き下げられ、2016年分も-0.6%から-0.8%へ7週連続で下方修正された。インフレ率予想も上方修正されブラジルの経済成長とインフレに対する悲観的な見方が更に強まっていることが示された。
- 22日には大統領弾劾の採決が実施される可能性があるとの報道を受けて、2002年10月につけた安値を寄り付きから割り込んだ。欧州株式市場が自動車株主導で下落したこともあり、リスクオフムードからレアルは4.06台まで売られた。翌23日には伯中銀が新規で通貨スワップ入札を行うと発表したことを受けてレアルが反発する場面も見られたが、ECBが景気刺激策の拡大に慎重な姿勢を示したことを受けてリスクオフムードからレアルは再び軟調に転じた。ルセフ大統領弾劾の懸念が強まったこともレアルの下押し圧力となった。
- 24日には1億ドルの中銀のドル売りスワップ入札に加え、トンビニ伯中銀総裁が政策金利を長期にわたって現行水準で据え置くと共に、外貨準備を使った実弾介入を含めてあらゆる手段を使ってレアルの変動を抑制するとコメントしたことからレアルが急反発し、3.9台を回復した。週末にかけては寄り付き直後に週間高値となる3.8850をつけた後は4.0台まで急反落したが、中銀が2億ドルのスワップ入札行ったことから3.91台まで値を戻し、その後は3.97-3.98台で底堅く推移した。結局3.9750でクローズした。

## 3. 今週のチャート&amp;ハイライト



出所: Bloomberg

## レアルが史上最安値を更新

22日にブラジルレアルは2002年10月の安値を更新し、24日には1994年7月にレアルが発足して以来の史上最安値となる4.2470を示現した。ブラジル中銀は今年の3月に為替介入プログラムを終了し、既存ポジションのロールオーバーのみを行って来たが、24日と25日に総額3億ドルの新規ドル売り通貨スワップ入札を行った。トンビニ伯中銀総裁から外貨準備を使った実弾介入を示唆するコメントもあったことから、レアルは一時最安値から約8.5%急反発した。

当資料は一般的な情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定のお客様のニーズ、財務状況又は投資対象に対応することを意図しておりません。また、当資料は、適用法令上許容される範囲内でのみ利用可能であり、当資料の頒布を制約する法令が存在する地域の方によって利用されることを意図しておりません。当資料内のいかなる情報又は意見も、預金、有価証券、デリバティブ取引その他の金融商品の売買、投資、保有などを勧誘又は推奨するものではありません。資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性、適時性、適切性又は完全性を表明又は保証するものではなく、当行、その子会社又は関連会社は、お客様による当資料の利用等に関して生じうるいかなる損害についても責任を負いません。ご利用に関しては、すべて お客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料の内容は予告なしに変更することがあり、また、当行、その子会社又は関連会社は、当資料を更新する義務を負っておりません。また、当資料は 著作物であり、著作権法により保護されています。当行の書面による許可なく複製又は第三者、個人顧客もしくは一般投資家への配布をすることはできません。



Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A

Treasury Department  
Av. Paulista, 1274 – Bela Vista

## 4.来週の為替市場注目点

## 予想ドル・レアル相場レンジ：3.80－4.10

今週のレアルはルセフ大統領弾劾の可能性が高まったことを受けてとうとう市場最安値を更新した。その後、ブラジル中銀が為替介入プログラムの増額をアナウンスしレアルは急反発した。来週も引き続きブラジル中銀の行動が焦点となるが、レアル売りの背景となっている政局の混迷に解決の兆しが見えないことから、レアル安トレンドは不変と見ている。今回行った介入プログラムは本年の3月に終了したものの復活であったが、このプログラムが開始された2013年以降、レアル安トレンドに歯止めをかけるオペレーションとはなっていない。ただし、今回の中銀の行動で市場参加者の間ではドルレアルの4.0が中銀の防衛ラインとの見方が出てきており、中銀の今後の行動次第では、4.0が当面のレジスタンスラインになる可能性がある。逆にスムーjing オペレーションを重視して、過去のプログラムのように一定量を時間軸で入札して行く方法を取るようだと、レアル安は止まらな

いだろう。

一方、ドルサイドの材料としては金曜日に9月の雇用統計の発表がある。現在の市場予想はNFPが前月比200千人増加と前月から改善を見込む声が多い。今週のイエレン議長や他のFRB理事のコメントで年内利上げの見方が強まっていることもあり、ドルは堅調に推移しそうだ。

## 5.本日の主要経済指標

国	イベント	予想	実績	前回
ブラジル	FIPE CPI-週次	0.48%	0.57%	0.47%
ブラジル	FGV建設コスト(前月比)	0.15%	0.22%	0.80%
ブラジル	PPI 製造業(前月比)	--	1.29%	0.68%
ブラジル	PPI 製造業(前年比)	--	8.49%	7.63%
ブラジル	登録雇用創出合計	-74900	-86543	-157905
米	GDP確報値(年率/前期比)	3.7%	3.9%	3.7%
米	個人消費	3.2%	3.6%	3.1%
米	ミシガン大学消費者マインド 指数	86.5	87.2	85.7

## 6.来週発表される主要経済指標

国	日付	イベント	期間	予想	前回
ブラジル	9/28	貿易収支(週次)	Sep-27	--	\$352m
米	9/28	個人所得	Aug	0.4%	0.4%
ブラジル	9/29	FGVインフレーションGPM(前月比)	Sep	0.82%	0.28%
ブラジル	9/29	中央政府財政収支	Aug	-10.9b	-7.2b
ブラジル	9/30	基礎的財政収支	Aug	--	-10.0b
米	9/30	ADP雇用統計	Sep	190k	190k
ブラジル	10/1	FGV CPI IPC-S	Sep-30	--	0.35%
ブラジル	10/1	マーケット・ブラジルPMI製造業	Sep	--	45.8
ブラジル	10/1	貿易収支(月次)	Sep	--	\$2689m
ブラジル	10/1	CNI設備稼働率(季調済)	Aug	--	78.6%
米	10/1	ISM製造業景況指数	Sep	50.6	51.1
ブラジル	10/2	FIPE消費者物価指数(月次)	Sep	--	0.56%
ブラジル	10/2	鉱工業生産(前年比)	Aug	-9.4%	-8.9%
米	10/2	非農業部門雇用者数変化	Sep	200k	173k
米	10/2	失業率	Sep	5.1%	5.1%

当資料は一般的な情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定のお客様のニーズ、財務状況又は投資対象に対応することを意図しておりません。また、当資料は、適用法令上許容される範囲内でのみ利用可能であり、当資料の頒布を制約する法令が存在する地域の方によって利用されることを意図しておりません。当資料内のいかなる情報又は意見も、預金、有価証券、デリバティブ取引その他の金融商品の売買、投資、保有などを勧誘又は推奨するものではありません。資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性、適時性、適切性又は完全性を表明又は保証するものではなく、当行、その子会社又は関連会社は、お客様による当資料の利用等に関して生じるいかなる損害についても責任を負いません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さい。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料の内容は予告なしに変更することがあり、また、当行、その子会社又は関連会社は、当資料を更新する義務を負っておりません。また、当資料は 著作物であり、著作権法により保護されています。当行の書面による許可なく複製又は第三者、個人顧客もしくは一般投資家への配布をすることはできません。